

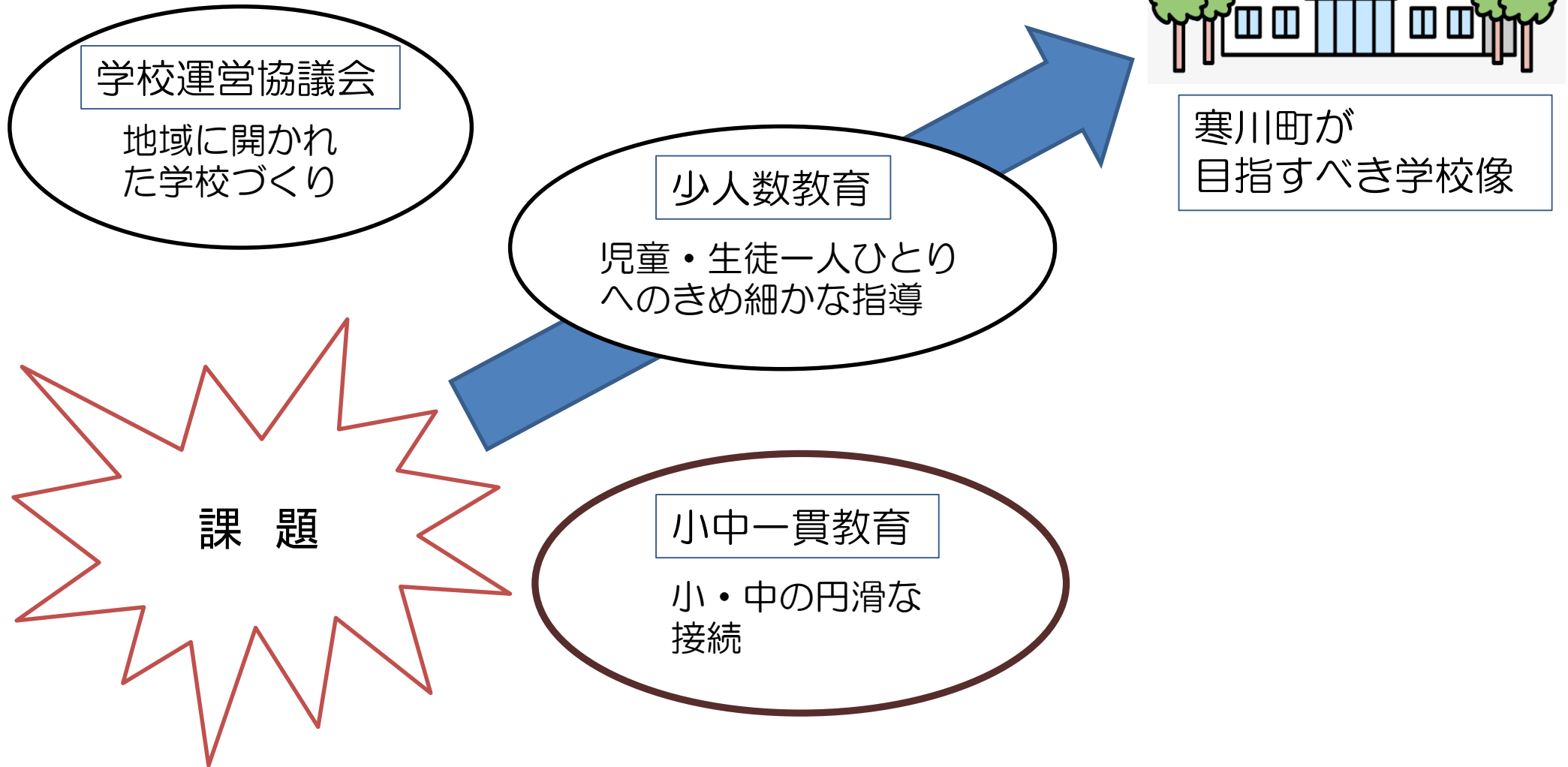


学校の新たな「かたち」づくりの 取組み方針について

2022年7月13日



1 学校の新たな「かたち」づくりについて



1 学校の新たな「かたち」づくりについて

■ コミュニティ・スクール

- 令和元年度 寒川小学校導入を皮切りに令和5年度までに町内小・中学校 全8校に学校運営協議会を設置予定
- 地域学校協働本部の設置が今後の課題

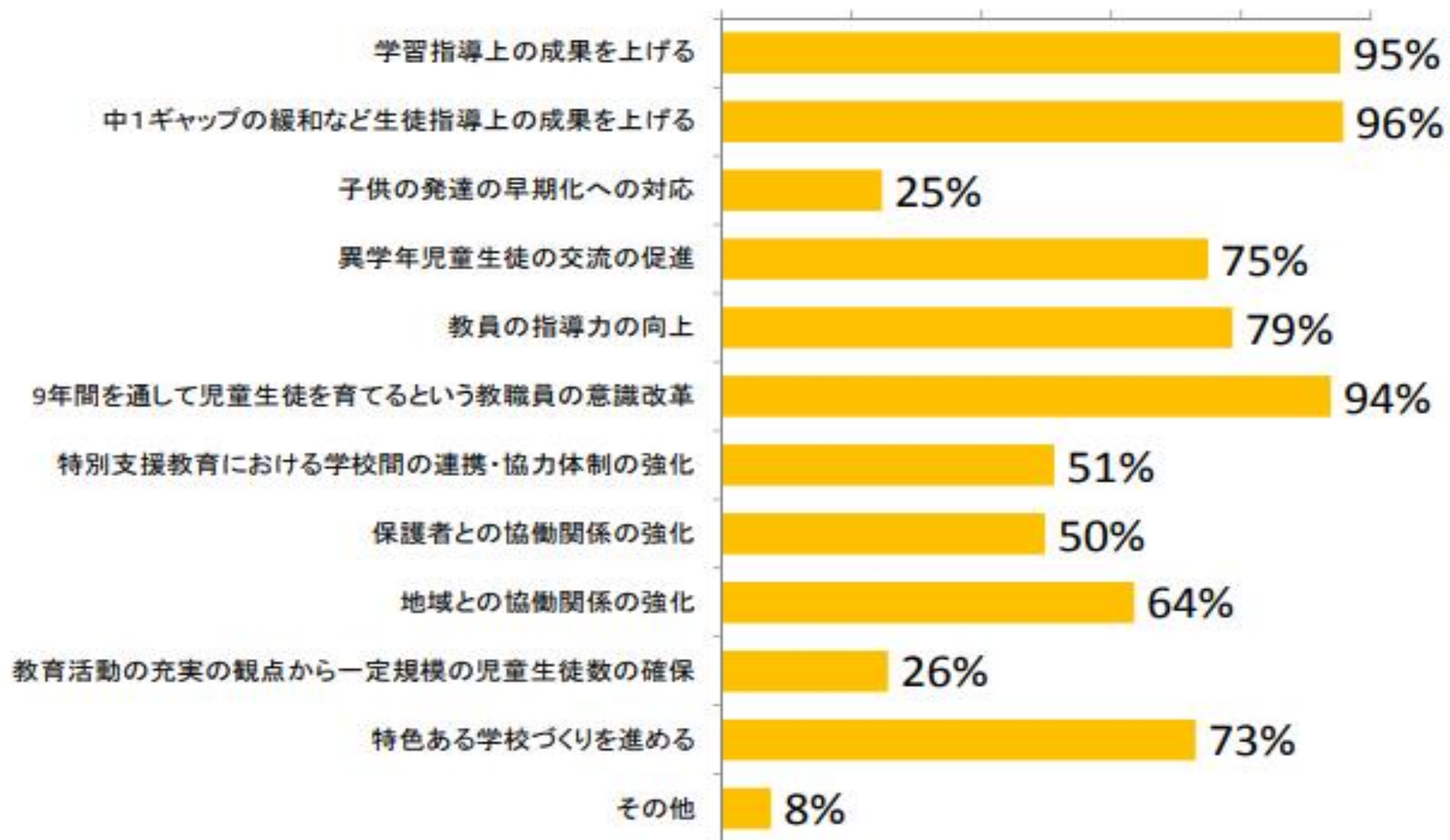
■ 少人数教育

- 国の施策により小学校については、35人以下学級を導入(~R7年度)
- 中学校における35人以下学級の導入の検討

■ 小中一貫教育

2 小中一貫教育について

小中一貫教育推進の主なねらい

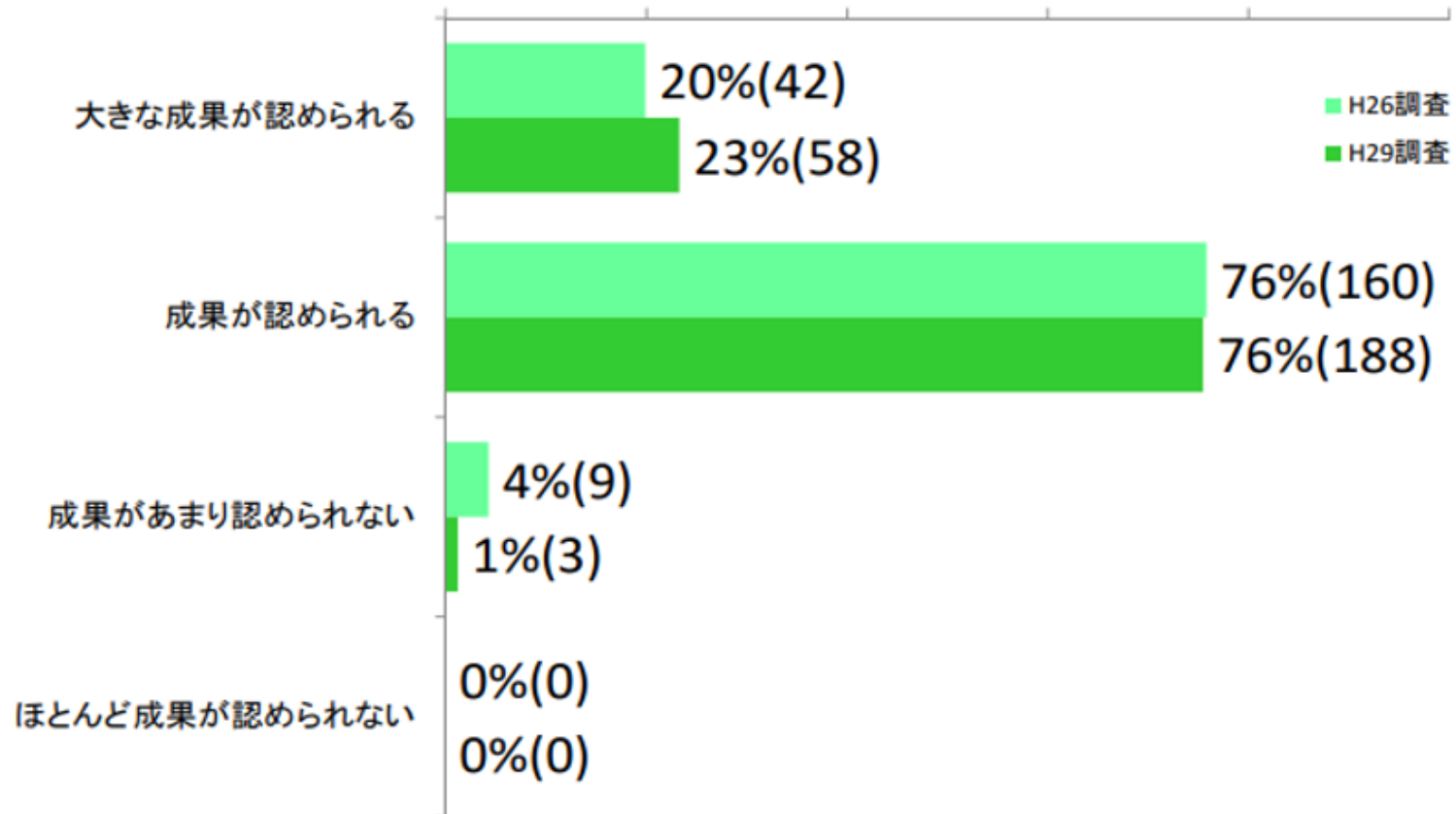


N=211(小中一貫教育実施市区町村)

2 小中一貫教育について

小中一貫教育のこれまでの取組の総合的な評価(成果)

【公立】



回答:H26 211市区町村(小中一貫教育実施市区町村)

H29 249市区町村(小中一貫教育実施市区町村)

31

小中一貫教育の成果と課題について

■ 成果

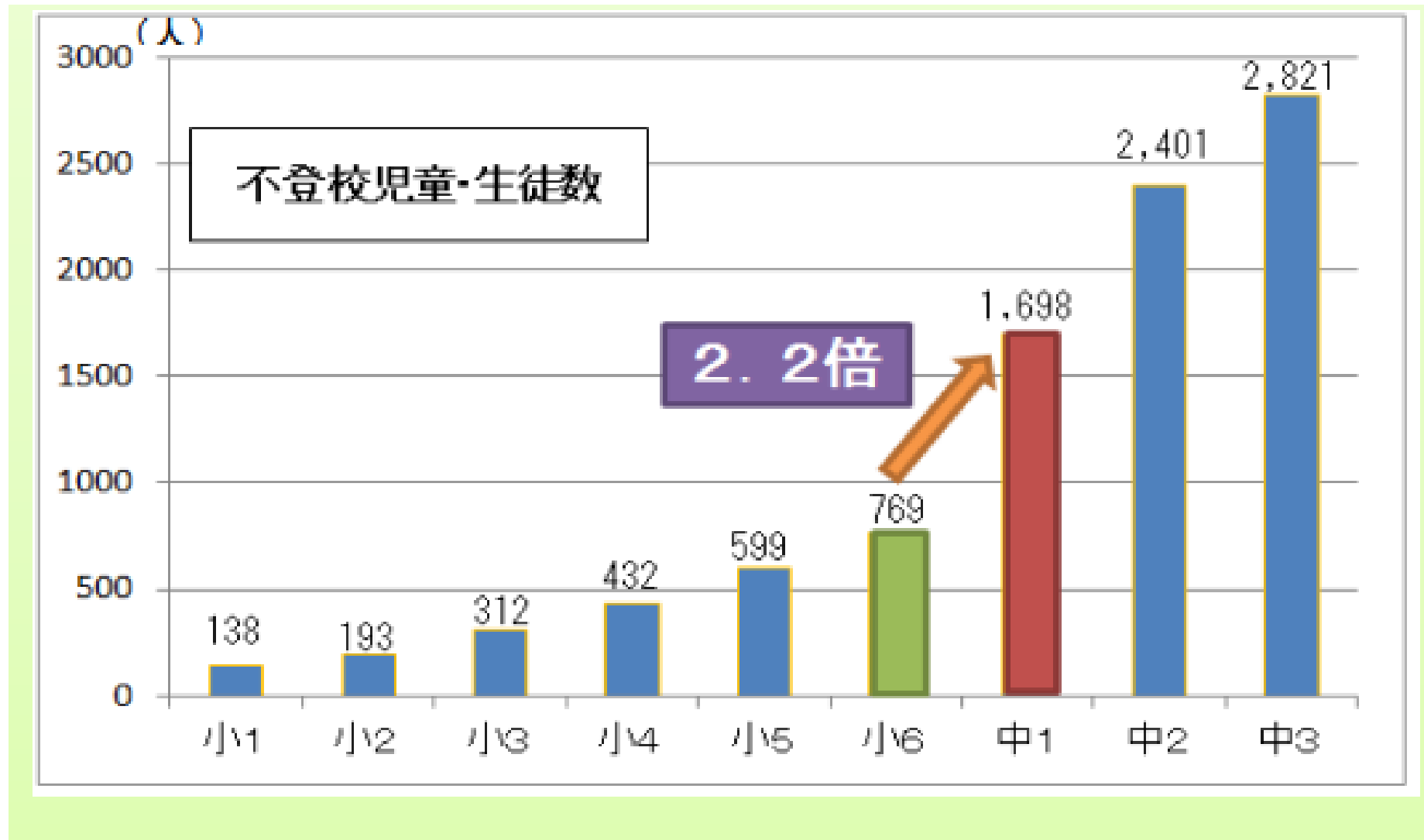
- 中学校への進学に不安を覚える児童の減少
- 「中1ギャップ」の緩和
- 小・中学校の教職員間で互いの良さを取り入れる意識が高まった
- 小・中学校の教職員間で協力して指導にあたる意識が高まった

小中一貫教育の成果と課題について

■ 課題

- 小中の教職員間での打合せ時間の確保
- 小中合同の研修時間の確保
- 児童生徒間の交流を図る際の移動手段・移動時間の確保
- 教職員の負担感・多忙感の解消

3 学校の現状について（児童生徒指導面）



※神奈川県公立小・中学校 児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査より（H26年度）

・県内での傾向と同様、寒川町においても中学校入学後、長欠生徒の増加傾向が見られる。

4 期待される効果

- 「中1ギャップ」の緩和
不登校、いじめ等の減少 – 児童・生徒指導上の問題・負担減少
- 中学校への進学に不安を覚える児童の減少
- 自己肯定感、自己効用感が向上
- 学習意欲の向上、授業の理解度の向上、学習習慣の定着
- 小中学校教職員間で互いのよさを取り入れることによる協力意識の向上

小中連携、小中一貫、小中一貫教育制度の関係

小中連携教育

小・中学校段階の教員が互いに情報交換や交流を行うことを通じて、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指す様々な教育

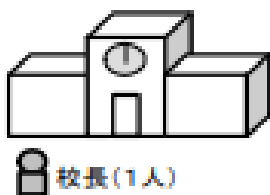
小中一貫教育

小中連携教育のうち、小・中学校段階の教員が目指す子供像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、体系的な教育を目指す教育

①義務教育学校

・新たな学校種(一つの学校)
⇒一人の校長、
一つの教職員組織

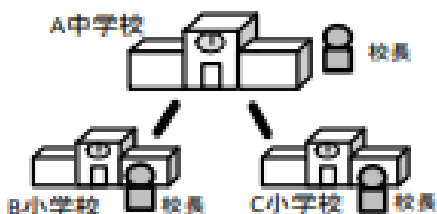
修業年限:9年
(前期課程6年+後期課程3年)



小中一貫型小学校・中学校

・組織上独立した小学校及び中学校が一貫した教育を施す形態
⇒それぞれの学校に校長、教職員組織

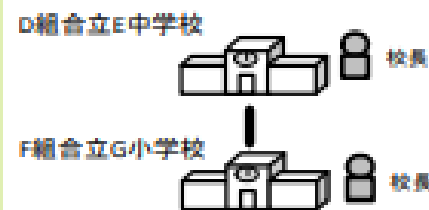
②併設型小学校・中学校 (同一の設置者)



※一貫教育にふさわしい運営体制の整備が要件

- 例・統合調整を行う校長を定める
- ・学校運営協議会の合同設置
- ・校長等と兼任

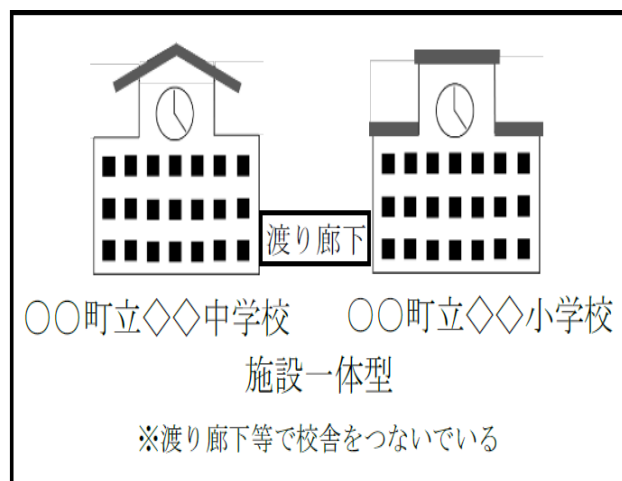
③連携型小学校・中学校 (異なる設置者)



※併設型小・中学校を参考に適切な運営体制を整備すること

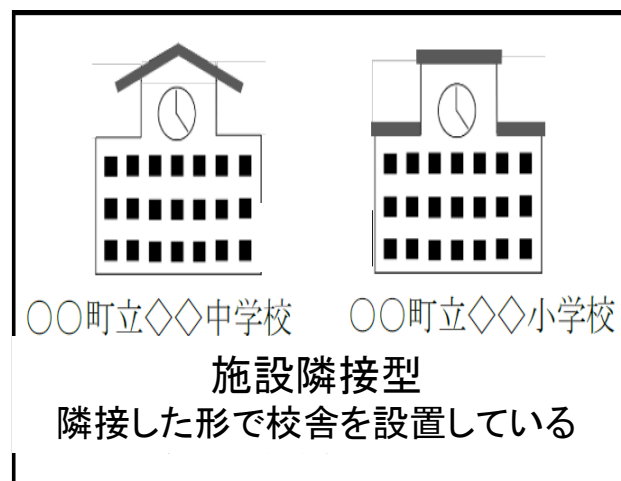
※①②③いずれも施設の形態は問わない。

施設一体型



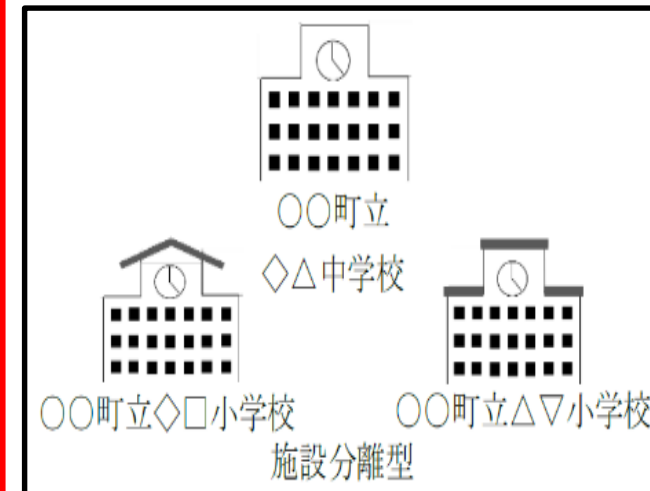
小・中学校が同一敷地内にあり、児童・生徒が共同で学校生活を送る環境

施設隣接型



学校の敷地は別であるが、隣接していて、教員、児童・生徒が行き来できる環境

施設分離型



学校施設は離れているが、統一カリキュラムで一貫教育を実施する環境